

# 小学3年2組 国語科指導案

指導者 恩田 一穂

民話のおもしろいところに着目して読み、見つけたことを交流し合うことは、民話のおもしろさを読み味わい、進んで他の民話を読み広げることにも有効であったか。

## 1 単元名 民話のおもしろさ発見 ～世界の民話を読もう～

### 2 授業の構想

(1) 本学級の児童は、読書に対する意欲が高い児童が多い。朝の読書タイムや休憩時間など、時間を見つけては、進んで読書をする児童も少なくない。また、国語科の学習を通して、登場人物の心情や場面の様子を、文章を手がかりに想像して読むことや読み取ったことを表現することの楽しさを味わうことができるようになっている。話し合いを通してお互いの考えを交流することで、考えが深まる場面も少しずつ増えてきた。以下の文章は、授業後のふりかえりである。

今日は、友だちの発表で分かったことがあります。それは、野ねずみたちは、雨がきらいということでした。えっ！そうだったの！！と思いました。よく文を見ているなと思いました。わけは、文に雨がきらいなんて書いてなくて、だからよく見ているなと思いました。でも、とくべつメニューを聞いて野ねずみは、雨がきらいじゃなくなったということも知れてよかったです。

このように、他者の考えに触れて、自分の読みでは分からなかったことに気づき、よかったという感想をもつことができている。

しかし、その一方で、自分の好きなジャンルはたくさん読むが、広がりがない児童、また、読書に対する意欲が低い児童も見られる。そこで、このような実態のもと、「民話」というジャンルの読み物へも関心を高めさせ、読書の幅を広げる必要があると考えた。「民話」は分量が比較的少なく展開がはっきりしているので、読書意欲が低い児童にとっても、興味をもって読み進めることができるものではないかと考える。

(2) 本単元では、民話について、作品の中のおもしろいところを読み取り、読み取ったことを交流することで、民話のおもしろさやその特徴に気づき、世界の民話に興味をもち、読み広げることがをねらいとしている。教材は、朝鮮半島に伝わる民話「こかげにごろり」と「三年とうげ」、インドの民話「とらとおじいさん」の三作品を扱う。日本の民話については、児童は小さいころから昔話としてよく慣れ親しんできている。外国の民話を取り上げることは、日本の民話と比べてみて、文化の面で異なることを発見したり、反対に国は違っても通ずるところも発見したりすることができ、興味をもって読み進めることができると考える。

「こかげにごろり」はお百姓が知恵を働かせて横暴な地主を困らせる話である。お百姓の生きるための知恵とたくましさ、地主とお百姓の立場が徐々に逆転していくというおもしろさとして描かれている。その様子が、時を示す言葉や、場所を示す言葉といっしょに表されているので、児童は、場面の移り変わりやそのときの登場人物の気持ちをとらえやすい。木かげが伸びていくことで、お百姓と地主のやりとりが進展していき、立場が逆転していくところにおもしろさを感じるであろうし、地主の性格や百姓の行動にもおもしろさを感じるであろう。また、「ごろり」という言葉の繰り返しや、調子のよい文章など、表現のおもしろさを味わうことができる。

「三年とうげ」は、ある出来事により、自分の寿命が三年と思いこんでしまったおじいさんが、ある少年の知恵により、もとのように元気になるという話である。児童は、おじいさんに同化しながら気持ちを読み進めていくだろうが、物語全体を見通したときには、最初はひどく落ち込んでいたのに、話を聞いてすぐに元気になってしまう。そうした分かりやすい主人公の人柄について感想をもつだろう。そしてなにより読み手を惹きつけるのは、少年トルトリの知恵である。一度転んでしまったら三年しか生きられないという言い伝えを、一度転べば三年、二度転べば六年と、寿命が伸びるものだとプラスのものに変えてしまったところである。その他、リズムの良い歌やユニークな擬態語があり、そうした表現のおもしろさも感じるだろう。

「とらとおじいさん」は、罠にかかって檻の中に閉じこめられたとらをおじいさんが助けてしまうところから

始まる。助けた途端、とらはおじいさんを食べるといい出すが、納得のいかないおじいさんは、木や牛などに、その理不尽さを話してまわるが受け入れられない。そんな中、最後に現れたきつねが知恵を使って再びとらを檻の中に閉じこめ、おじいさんを救う話である。他の二作品同様に、結末におもしろさを感じることができるだろう。また、「三年どうげ」とは、知恵をはたらかせる話という共通点もある。また、「木かげにごろり」とは、くり返しの構造という点で、共通点が見られる。

本学校園国語科では、ことばの学習、特に「読むこと」の学習を通してものの見方や考え方を広げ、深めながら、子ども自身が自己の変容をとらえる機会を大切に、よりよい言語生活や社会生活を送ろうとすることのできる子どもの姿をめざしている。本単元では、個人で読み取った作品のおもしろいところを交流し合う活動を通して、他者の読みと自分の読みを比べながら作品のおもしろさについて再度考え、作品のおもしろさをつかむ視点を広げ、作品をより深く読み味わうことができることをねらっている。

(3) 本単元では、一人ひとりが読み取ったおもしろいところを交流し合い、物語のおもしろさを読み味わい、世界の民話を興味をもって読み広げることがねらいとしている。そのためには、民話というジャンルの物語のおもしろさを感じることが大切である。また、自力で読む際に、その物語のおもしろさを見つけることのできる力、つまり、読みを深めることができる力をつけなければならない。そこで、本単元を構成するにあたり以下の2点に留意する。1点目は、民話というジャンルのおもしろさを感じるために、読み取りの学習の際に、複数の教材を取り扱うことである。一つの作品だけでは見えなかった、民話の中にあるおもしろさを感じ取らせたい。2点目は、一人読みから交流へという展開をくり返し設定することである。本単元では3つの教材を取り扱うが、おもしろいところを見つけ、その理由も含めて発表し合う中で、自分では気づかなかった読みを獲得しながら読みを深めていくことができると考える。つまり、様々な視点から、おもしろさを見つけることができるようになることで、より作品を深く味わうことができるようになると思う。以上のようなことから、次のように単元を展開する。

単元の学習に入るまでのところで、学級にいくつかの民話を用意しておき、児童が自由に読めるようにしておく。第1次では、これまでに読んだ民話の感想を交流することから始める。続いて、民話とはどのようなお話であるかおさえた後、日本の民話を一作品読み聞かせをすることで、民話に対する関心を高める。

第2次では、「木かげにごろり」を扱う。まず、作品を通読して、初発の感想をもつ。作品の「おもしろいところ」を見つけるといった視点をもって感想を書き、その後の学習につなげる。「おもしろいところ」を見つけることには、以下のような意味があると考えられる。一つは、「おもしろいところ」という作品の魅力的な部分を読み味わうことで、進んで「民話」に親しもうとする態度をもたせることである。もう一つは、話の展開やリズムの良い表現など、「民話」というジャンルの文章がもつ特徴に気づくことにつなげることができるということである。こうして一人ひとりが見つけたことをもとに、交流する活動を行う。初読では、自分の中に強烈に印象に残ったことであれば、おもしろいところとして自覚できるであろうが、その他のところについては読み流してしまうこともあるだろう。他者との交流をすることで、一人の読みでは分からなかった作品の魅力についても気づくことができると思う。

第3次では、「とらとおじいさん」「三年どうげ」を扱う。ここでは、「木かげにごろり」でつけた読み取りの力を生かして、一人で書き込みをしたりノートにまとめたりしながら、一人での読み取りを進め、おもしろいところを見つけていく姿をめざす。また、書くことで自分の考えを明確にし、全員が話し合いの材料をもって交流に臨めるようにしたい。そして、作品を読み終わったところで、自分の読みを友だちと交流する時間を設ける。その際には、4つの視点(①登場人物について、②話の展開について、③結末について、④言葉について)で整理して考えられるように板書を工夫する。交流を通して出てきた意見から、相違点や共通点をおさえながら、「民話」のもつ特徴やおもしろさをまとめる活動を行う。共通点として出てきたことについては、「民話」の「おもしろさ」としてまとめることができるであろうし、相違点については、他の作品ではどうなっているだろうかという読み広げへの意欲につながるだろう。

第4次では、これまでの読みをもとに、世界の民話を読み広げ、自分が読んだ作品のおもしろいところを紹介し合う。ここでは、自分が読んでおもしろかった「民話」を、友だちにも読んで欲しいという気持ちを大切にしたい。また、その気持ちを同様に、友だちが紹介している「民話」を読んでみたいという意欲をもたせたい。そこで、それぞれが読んだ「民話」のおもしろいところを伝えることのできるカード作りを行う。結末については、

紹介してしまうと読み手の意欲をそぐので、クイズの形にする。こうして、第3次で読み取った「民話」のおもしろさを他の民話でも味わえるようにしたい。

本時は第3次の4時間目にあたり、「三年とうげ」の一人読みが終わった段階での授業である。まず、それぞれがおもしろいところについて自分が見つけたことを発表する。発表する際には、どうしてその場面がおもしろいと感じたのか理由も一緒に話すようにする。記述に戻りながら発表することで、一人よがりの読みではなく、全体に共通のものとして広がりをもてるような考えを共有できるようにする。おもしろいところを交流した後は、民話のもつ魅力について考える活動を行う。魅力について考える手立てとして、三つの作品のおもしろいところを比べ、共通点について話し合う活動を行う。その際に第2次でまとめた「木かげにごろり」「とらとおじいさん」のおもしろいところと一緒に掲示しておく。この掲示と、本時の板書を先に述べた4つの視点で整理して考えられるように工夫することで、共通点をおさえやすくすると共に、「民話」のもつ魅力に気づくことにつなげていきたい。

### 3 展開計画 (全11時間 本時8/11)

次	主な学習	時	具体的な学習・内容 (◇は、学級全体の学び合いの場面)
1	「民話」について関心を高める。	1	・これまでに読んだことのある「民話」について感想を交流する。 ・「民話」とはどんなお話か確認し、民話を1作品読み聞かせをする。
2	「木かげにごろり」の話を読む。	2 3 4	・初発の感想をもち、作品のおもしろいところを中心に交流する。 ・登場人物や場面の移り変わりをおさえながら、作品のおもしろいところを中心に読み取る。
3	「三年とうげ」「とらとおじいさん」の話を読み、これまで読んだ三つの作品を比べ、「民話」のおもしろさについて話し合う。	5 6 7 ⑧	・「木かげにごろり」での読みをもとに、「とらとおじいさん」のおもしろいところを見つける。 ・「とらとおじいさん」で読みとったおもしろいところを交流する。 ・これまでに読んだ二つの作品をもとに、「三年とうげ」のおもしろいところを見つける。 ◇三つの作品の共通点をおさえながら「民話」のおもしろさについて話し合う。(本時)
4	世界の民話を読んで、お気に入りの「民話」を紹介し合う。	9 10 11	・世界の民話を読み、そのおもしろさをまとめる。 ・世界の民話の紹介カードを作る。 ・自分が選んだ「民話」を紹介しあい、感想を交流する。

### 4 学び合いによる思考力・判断力・表現力の評価

次	時	学習活動	学習活動における具体的な評価規準	評価資料	評価基準		
					A	B	C
1	3 4	◇「木かげにごろり」のおもしろいところを話し合い、読みを広げ、深める。	叙述をふまえ、他者の読みを取り入れながら、作品のおもしろいところを読みとることができる。	発言 書き込み ふりかえり	叙述を基に、作品のおもしろいところを多面的にとらえ、理由と合わせて表現することができる。	叙述を基に、作品のおもしろいところをとらえ、理由と合わせて表現することができる。	おもしろいところを見つけることができず、話し合いで考えを深めることができない。
2	5	◇「とらとおじいさん」のおもしろいところを話し合い、読みを広げ、深める。	叙述をふまえ、他者の読みを取り入れながら、作品のおもしろいところを読みとることができる。	発言 書き込み ふりかえり	叙述を基に、作品のおもしろいところを多面的にとらえ、理由と合わせて表現することができる。	叙述を基に、作品のおもしろいところをとらえ、理由と合わせて表現することができる。	おもしろいところを見つけることができず、話し合いで考えを深めることができない。
3	⑧	◇三つの作品のおもしろいところを読み比べ、「民話」のおもしろさを話し合う。	三つの作品の共通点について話し合うことを通して、「民話」のおもしろさについて考えを深めることができる。	発言 ノート ふりかえり	三つの作品のいるところを多面的にとらえ、理由と合わせて表現することができる。	三つの作品のいるところをとらえ、理由と合わせて表現することができる。	三つの作品のいるところを見つけることができず、話し合いで考えを深めることができない。

## 5 本時の学習

### (1) ねらい

「木かげにごろり」「とらとおじいさん」「三年とうげ」のおもしろいところを比較し、共通点について話し合うことを通して民話のおもしろさについて考えを深めることができる。

### (2) 展開

学習場面と子どもの取り組み	教師の支援と願い・評価 (◎は学び合いのためのはたらきかけ)
<p>1 前時までの学習内容と本時のめあてを確認する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「木かげにごろり」と「とらとおじいさん」のおもしろいところをまとめた掲示物を用意して、本時の「三年とうげ」のおもしろいところと比べなら考えられるようにする。</li> </ul>
<p>三つの民話のおもしろいところを比べて、おもしろさのひみつを見つけよう。</p>	
<p>2 「三年とうげ」のおもしろいところを交流する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>元気のなかったおじいさんが最後に元気になるのがよかった。</li> <li>トリトルが言い伝えをいのように言いかえておじいさんに教えたところがおもしろい。</li> <li>三年とうげの最初の歌はこわいけど、後の歌は楽しい感じがしておもしろい。</li> <li>繰り返しでてくることばがある。</li> </ul> <p>3 「木かげにごろり」と「とらとおじいさん」「三年とうげ」のおもしろいところを比べ、民話のおもしろさのひみつについて考える。</p> <p>○見つけることはできているが理由がはっきりしていない子 →</p> <p>○複数見つけることができ理由がはっきりしている子 →</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>どれも、おもしろいところに登場人物についてのもがある。</li> <li>どれも、こまったことがあったのに最後は良い終わり方をしている。</li> <li>くり返し、リズムのいい言葉が出てくる。</li> <li>外国のお話だけれど、日本のお話とにているところがある。</li> </ul>	<p>◎おもしろいと思ったことを叙述に戻って理由を合わせて発表させることで、全員がおもしろいところを共有できるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>発表に対して、問い返したり、掘り下げる発問をしたりすることで、同じところでも理由が違うなど、考え方の違いが分かりやすくなるようにする。</li> </ul> <p>◎民話のおもしろさについて気づかせるために、三つの作品のおもしろいところを登場人物や話の展開、結果や言葉のおもしろさ等の視点で比較し、似ているところを見つけるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>にていると思うことについて、その理由を聞き、教師が考えを整理する。</li> <li>自分の考えがもてていることを認め、理由が友だちに伝わるように説明できるように声をかける。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p style="text-align: center;">— 評価の観点 (読む能力) —</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>三つの作品のにているところをとらえ、理由と合わせて表現することができる。</li> </ul> <p style="text-align: center;">【評価方法 発言・ノート】</p> <p><b>支援</b></p> <p>掲示物や板書を見るように声をかけ、にているという見方をもう一度確認できるようにする。</p> </div>
<p>4 本時の学習をふりかえる</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>友だちが見つけたおもしろいところは同じところもあったけれど、ちがうところもあってそこもおもしろいなと思った。</li> <li>三つのお話は、こまったことがおきるけど、最後は良い終わり方になっているところが民話のおもしろさのひみつなのかな。</li> <li>ほかの民話はどうなっているか読んでみたいな。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ノートに感想をまとめる際に、新しい発見があったことや、友だちの考えについてどう感じたのかという視点を与える。</li> </ul>